令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　21

事務事業名称		河川改良事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　土木部		課:　道路河川整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	1.災害に対する備えができているまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　2015(H27)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	河川法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	台風・豪雨などの自然災害に対する被害の抑制・軽減により、準用河川に隣接・近接する土地に居住する市民・事業者等が安全・安心して生活を送ることができる						
	対象者(受益者)	準用河川に隣接・近接する土地に居住する市民・事業者等						
	現状・課題	準用河川に隣接・近接する土地に居住する市民・事業者等の生命や財産が守れるように必要な河道改修や護岸工事などの河川整備を求められる						
	事業の概要	準用河川の現況能力と課題を把握するため、準用河川整備基本計画を策定し、計画的に河道改修や護岸工事などの整備事業を推進することで、自然災害に強い河川環境の保全を図る						
	年間の主な事務	準用河川整備基本計画の策定及び整備順序、事業化の時期を検討						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.00人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)		R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳	正職員、再任用、任期付職員	0	—	—	—		
	会計年度任用職員	0	—	—	—		
	特別職非常勤	0	—	—	—		
	附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計	0	—	—	—		
	物件費計	0	—	—	—	0	0.0%
歳出計		0	—	—	—		
歳入	国庫支出金	0	—	—	—	0	
	府支出金	0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)	0	—	—	—	0	
	市債	0	—	—	—	0	
	その他	0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)		0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)		0	—	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 準用河川整備を実施	m	0 m	ー m	ー m	ー m

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 計画通りに準用河川整備を進めることができる

指標: 各年度における計画の準用河川整備延長に対する実績延長の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	0	0	0	0	%
実績	0	―	―	―	%

算出方法: 実績延長/各年度における計画の準用河川整備延長×100

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: ―

指標: ―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	―	―	―	―	―
実績	―	―	―	―	―

算出方法: ―

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

準用河川の現況能力を把握し、課題整理を行い、大阪府の整備進捗を確認し、準用河川整備基本計画を策定する

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	R2年度に実施した枚方市準用河川整備基本計画策定業務委託の結果を課内で共有し、今後の事業展開について検討が必要。(R3年度より継続中) 大阪府の整備進捗に合わせ、準用河川整備基本計画を策定していく予定。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	安全確保の観点からの緊急性や整備基本計画に基づいた実行性、健全な財政運営を見込んだ中長期の整備計画に基づく計画性などの視点により財政状況も踏まえた上で総合的に判断し、整備順序や事業化の時期を検討していく。(R3年度より継続中)	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	見直し	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　64

事務事業名称	長尾杉線整備事業							
担当部署(R7年度機構)	部: 土木部	課: 道路河川整備課			区分	持続的事業		
基本項目	総合計画	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち			細区分	投資的区分	
		施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち			性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始： 2014(H26)年度	～	事業終了予定： 2026(R8)年度				
	根拠法令等	都市計画法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし			補助金性質:	—		
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	国道307号、国道1号バイパスの交通渋滞が解消され、第二京阪道路へのアクセス道路として、地域住民の利便性や防災機能が向上されている						
	対象者(受益者)	東部地域の国道307号、国道1号バイパス及びその周辺道路を利用する利用者						
	現状・課題	国道307号、国道1号バイパスに交通渋滞が発生しており、防災機能が損なわれている						
	事業の概要	【～平成28年度】 ・(都)牧野長尾線・長尾東町地内と国道307号((都)枚方東部線)・杉責谷地内を結ぶ東部地域の幹線道路として延長約1.7㎞、幅員14mおよび16mの都市計画道路として整備を検討する。 ・交通量調査や将来の道路ネットワークを検証して、予測交通量を算定するとともに、その結果をもとに道路の規模やルート選定を行い、整備計画を作成する。また、費用対効果を算定した上で都市計画道路としての整備を検討する。 【平成29年度～】 ・(都)牧野長尾線から国道307号まで(L=1,750m、W=14、16m)の都市計画道路整備を行う。						
	年間の主な事務	～令和7年度　道路整備工事						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	1.58人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	12,147	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		12,147	—	—	—		
	物件費計		515,436	—	—	—	910,372	56.6%
歳出計			527,583	—	—	—		
歳入	国庫支出金		169,343	—	—	—	176,200	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		311,300	—	—	—	688,800	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			480,643	—	—	—	865,000	
一般財源(物件費充当分のみ)			34,793	—	—	—	45,372	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 長尾杉線の整備を実施する	m	1,326 m	ー m	ー m	ー m

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	計画通りに長尾杉線の整備を進めることが出来る					
指標	長尾杉線整備事業全体の進捗率					
	R6	R7	R8	R9	単位	
目標	75.8	100	100	100	%	
実績	75.8	—	—	—	%	
算出方法	累計整備延長／総延長					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—				
指標	—				
	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

令和7年度末供用開始に向けて整備を進める

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	長尾工区の整備工事、用地取得を順調に進めた。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	R7年度内の供用開始に向け整備を進める。	R7年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　65

事務事業名称	御殿山小倉線整備事業							
担当部署(R7年度機構)	部: 土木部		課: 道路河川整備課		区分	持続的事業		
基本項目 総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分		
基本項目 総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤		
市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
				—				
事業期間	事業開始： 2014(H26)年度		～	事業終了予定： 未定(継続実施含む)				
根拠法令等	都市計画法							
関係附属機関等	該当なし							
関係補助金等	該当なし			補助金性質: —				

詳細項目 事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	中部地域の交通網の強化が図られ、安全な交通環境として通学路が確保されている
対象者(受益者)	中部地域の京阪御殿山駅から小倉東町地区までの周辺道路を利用する利用者
現状・課題	地域周辺道路では、地域住民・通学者の通行が多いことや、また通過交通が非常に多く狭小な道路でもあるため、安全確保が必要である
事業の概要	市道渚中宮線から市道甲斐田三栗線まで(L=1,330m、W=14m)の都市計画道路整備を行う
年間の主な事務	～令和6年度　渚星ヶ丘線から甲斐田三栗線まで　道路整備工事 令和6年度～　渚中宮線から渚星ヶ丘線　整備工事(設計・整備)

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	1.37人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳		正職員、再任用、任期付職員	10,533	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		10,533	—	—	—		
	物件費計		377,492	—	—	—	525,000	71.9%
歳出計			388,025	—	—	—		
歳入	国庫支出金		165,147	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			165,147	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			212,345	—	—	—	525,000	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 御殿山小倉線の整備を実施	m	840 m	ー m	ー m	ー m

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	計画通りに御殿山小倉線の整備を進めることが出来る
指標	御殿山小倉線整備事業全体の進捗率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	63.2	63.2	63.2	65.8	%
実績	63.2	ー	ー	ー	%
算出方法	ー				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	ー
指標	ー

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	ー	ー	ー	ー	ー
実績	ー	ー	ー	ー	ー
算出方法	ー				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

渚星ヶ丘線～渚中宮線までの区間の計画・設計を進め、整備工事に着手する。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	甲斐田三栗線～渚星ヶ丘線までの区間について供用開始した。 引き続く渚中宮線までの区間の予備設計に着手した。
R7 年度	
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度 取組方針	渚星ヶ丘線～渚中宮線までの区間の予備設計を完了し、R7年度内の事業認可取得を目指す。	R7年度 方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
	現状維持	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　66

事務事業名称		春日大峯線道路拡幅事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　土木部		課:　道路河川整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○			
	事業期間	事業開始：　2018(H30)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						

詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	市道春日大峯線を利用する市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている
	対象者(受益者)	市道春日大峯線を利用する市民・事業者等
	現状・課題	市道春日大峯線は交通量が多い一方で幅員が狭小であり、円滑な交通の流れとなっていない
	事業の概要	市道春日大峯線の拡幅整備事業を行う。 ◇ 計画の道路拡幅整備延長距離の合計:L=120m ◇ 実績延長距離の合計:L=48m ◇ 各年度における計画の道路拡幅整備延長距離:各年度未定
	年間の主な事務	用地取得に向け協議継続

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.00人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	0	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		0	—	—	—		
	物件費計		0	—	—	—	0	0.0%
歳出計			0	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			0	—	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 道路拡幅整備を実施	m	0 m	ー m	ー m	ー m

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 計画通りに道路拡幅整備を進めることができる

指標: 各年度における計画の道路拡幅整備延長に対する実績延長の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	0	0	0	0	%
実績	0	—	—	—	%
算出方法	実績延長/各年度における計画の道路拡幅整備延長×100				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: —

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

用地取得に向けた協議を行い、用地を取得する

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	今後の事業展開について検討が必要である。 地権者との協議が整っていないため、予算計上ができない。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	地域の意向や財政状況等を勘案し、事業の着手(再開)時期を検討していく。	R7年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　67

事務事業名称	中振交野線整備事業							
担当部署(R7年度機構)	部: 土木部		課: 道路河川整備課		区分	持続的事業		
基本項目 総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分		
基本項目 総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤		
市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
				—				
事業期間	事業開始： 2015(H27)年度		～	事業終了予定： 未定(継続実施含む)				
根拠法令等	都市計画法							
関係附属機関等	該当なし							
関係補助金等	該当なし			補助金性質: —				

詳細項目 事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	京阪本線連続立体交差と連携した南部地域の交通網の強化を図り、通学路の確保や地域住民の利便性と防災機能が向上される
対象者(受益者)	南部地域の府道八尾枚方線及び市道周辺(狭小な道路)を利用する利用者
現状・課題	地域周辺道路では、地域住民・通学者の通行が多いことや、また通過交通が非常に多く狭小な道路でもあるため、安全確保が必要である
事業の概要	府道八尾枚方線から市道南中振21号線及び市管理道路まで(L=600m、W=16m)の都市計画道路整備を行う
年間の主な事務	～令和6年度　暫定供用 令和6～8年度　収用手続き 令和8年度～　整備工事(本格供用)

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.81人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	6,227	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		6,227	—	—	—		
	物件費計		79,723	—	—	—	3,000	2657.4%
歳出計			85,950	—	—	—		
歳入	国庫支出金		5,616	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		66,200	—	—	—	2,700	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			71,816	—	—	—	2,700	
一般財源(物件費充当分のみ)			7,907	—	—	—	300	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 中振交野線の整備を実施	m	460 m	ー m	ー m	ー m

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 計画通りに中振交野線の整備を進めることが出来る

指標: 中振交野線整備事業全体の進捗率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	83.6	83.6	100	100	%
実績	83.6	—	—	—	%

算出方法: —

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: —

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—

算出方法: —

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

令和6年度に暫定供用開始をした路線について本格供用開始出来るよう設計・整備を進める

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	蹉跎神社から府道八尾枚方線までの暫定供用開始を行った。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	本格供用開始に向けた業務を行い、道路整備事業を進めていく。	R7年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　68

事務事業名称		道路改良整備事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　土木部		課:　道路河川整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　不明		～	事業終了予定：　未定(継続実施含む)			
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし			補助金性質:　—			
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	損傷した道路構造物を補修することで、安全で安心な道路構造物を維持できている						
	対象者(受益者)	法定外公共物や橋梁などの道路構造物を利用する利用者						
	現状・課題	災害等による損傷した道路構造物については安全確保が必要である						
	事業の概要	・法定外公共物(里道)の改良工事を行う ・市道の維持補修工事に該当しない道路改良工事を行う						
	年間の主な事務	整備等に向けた協議、工事						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.00人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	0	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		0	—	—	—		
	物件費計		0	—	—	—	0	0.0%
歳出計			0	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			0	—	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 損傷した道路構造物を補修する	件	0 件	ー 件	ー 件	ー 件

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	大規模な災害時の道路施設の改良・補修などを行う
指標	改良する事象が発生した場合の対応件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	0	0	0	0	件
実績	0	—	—	—	件
算出方法	対応件数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

大規模災害時に道路施設が損傷した場合に改良・補修を行う

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	大規模災害の発生はなかった。
R7 年度	
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度 取組方針	大規模災害が発生し、道路施設が損傷した場合は改良・補修を進める。	R7年度 方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
	現状維持	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　69

事務事業名称		牧野長尾線整備事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　土木部		課:　道路河川整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　1994(H6)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	都市計画法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	府道枚方高槻線、JR長尾駅周辺の交通渋滞が緩和され、地域住民の利便性と防災機能の向上や通学路が確保されている。						
	対象者(受益者)	市域北部の府道枚方高槻線、JR長尾駅周辺を利用する利用者						
	現状・課題	府道枚方高槻線、JR長尾駅周辺に交通渋滞が発生している。また、住宅地内に狭小な道路も多くあり安全確保が必要である						
	事業の概要	・八田川バイパスから府道枚方高槻線まで(L=1,450m、W=16m)の都市計画道路整備を行う。						
	年間の主な事務	～令和7年度　長尾大池区間まで整備工事　供用開始 令和7年度～　用地取得交渉、収用手続き						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	1.31人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	10,071	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		10,071	—	—	—		
	物件費計		176,633	—	—	—	272,250	64.9%
歳出計			186,704	—	—	—		
歳入	国庫支出金		75,200	—	—	—	75,200	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		86,100	—	—	—	181,500	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			161,300	—	—	—	256,700	
一般財源(物件費充当分のみ)			15,333	—	—	—	15,550	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 牧野長尾線の整備を実施	m	1,044.8 m	ー m	ー m	ー m

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	計画通りに牧野長尾線の整備を進めることが出来る。					
指標	牧野長尾線整備事業全体の進捗率					
	R6	R7	R8	R9	単位	
目標	62.4	79.4	79.4	79.4	%	
実績	72.1	—	—	—	%	
算出方法	累計整備延長／総延長					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—				
指標	—				
	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

令和7年度末までに長尾大池区間の供用を開始する。引き続き府道枚方高槻線までの区間について計画・設計し、整備工事に着手する。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	順調に長尾大池区間の整備を進めた。 引き続き府道枚方高槻線までの区間の設計を進めた。ただ、整備工程の関係から整備工事の着手は見送った。
R7 年度	
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度 取組方針	大池区間のR7年度内の供用開始を目指す。 続く枚方高槻線までの区間の用地取得を進める。	R7年度 方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
	現状維持	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　70

事務事業名称		枚方藤阪線整備事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　土木部		課:　道路河川整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　1981(S56)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	都市計画法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	国道307号、府道杉田口禁野線の交通網の強化を図り、地域住民の利便性や防災機能が向上されている						
	対象者(受益者)	市域中心部と東部地域を結ぶ幹線道路周辺を利用する利用者						
	現状・課題	国道307号、府道杉田口禁野線の交通量が多く渋滞も発生しているため、防災機能が損なわれているため安全確保が必要である						
	事業の概要	・枚方市駅から府道田口禁野線まで(L=398.5m、W=16～27m)、及び府道杉田口線から国道307号まで(L=4,075.0m、W=12.5～27m)の都市計画道路整備を行う。(総延長L=4，473．5m)						
	年間の主な事務	用地取得に向け協議継続						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.00人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	0	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		0	—	—	—		
	物件費計		0	—	—	—	0	0.0%
歳出計			0	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			0	—	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 枚方藤阪線の整備を実施する	m	0 m	ー m	ー m	ー m

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 計画通りに枚方藤阪線の整備を進めることができる

指標: 枚方藤阪線整備事業全体の進捗率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	99.5	99.5	99.5	99.5	%
実績	0	—	—	—	%
算出方法	累計整備延長／総整備延長				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: —

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

用地取得に向けた協議を行い、用地を取得する

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	道路用地取得に向け地権者と交渉・継続中。 地権者との協議が整っていないため、予算計上ができない。
R7 年度	
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度 取組方針	引き続き、道路用地取得に向け地権者と協議し交渉を進めるとともに、道路用地取得後に道路整備工事を進めていく。	R7年度 方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
	現状維持	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　74

事務事業名称		枚方市駅周辺再整備事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　土木部		課:　道路河川整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　2018(H30)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						

詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	枚方市駅周辺再整備ビジョンにもとづき外周道路の整備、歩行者動線の整備により、安全な歩行空間が確保でき、渋滞が解消している
	対象者(受益者)	枚方市駅周辺の商業施設及び交通機関を利用する利用者。/南部地域の交通網の強化を図り、通学路の確保や地域住民の利便性と防災機能が向上される。
	現状・課題	枚方市駅北口周辺の交通渋滞が発生しており、また医療機関への通院者、通学者等も多く通行しているため、安全確保が必要である
	事業の概要	【平成28年度～】 枚方市駅周辺再整備ビジョン対象エリアの土地利用や事業手法等の検討を行い、これらと並行して地元検討組織等の設立に向けた支援や関係権利者等との意見交換を行った。また、枚方市駅北口・南口駅前広場の拡充、外周道路の整備、歩行者動線の整備についての概略検討を実施。 これらの検討をもとに順次、歩行者動線の整備、エスカレ―タ―設置、外周道路の整備、京阪枚方市駅の高架下利用に取り組む。 ◇　計画の枚方市駅周辺再整備延長距離の合計:L=385m ・エスカレ―タ―設置:L=15m ・歩行者導線の整備:L=160m ・外周道路の整備:L=140m ・京阪枚方市駅の高架下利用:L=70m ◇　実績延長距離の合計:L=15m ◇　各年度における計画の枚方市駅周辺再整備延長距離 ・R3年度:0m ・R4年度:150m(高架下:L=70m、歩行者導線整備:L=80m) ・R5年度:120m(歩行者導線整備:L=80m、外周道路整備:L=40m) ・R6年度:100m(外周道路整備:L=100m)
	年間の主な事務	用地取得に向け協議継続

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.63人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

(千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)

決算額									
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	4,843	—	—	—			
		会計年度任用職員	0	—	—	—			
		特別職非常勤	0	—	—	—			
		附属機関委員	0	—	—	—			
	人件費計		4,843	—	—	—			
	物件費計		254,156	—	—	—	247,000	102.9%	
歳出計			258,999	—	—	—			
歳入	国庫支出金		11,765	—	—	—	11,765		
	府支出金		0	—	—	—	0		
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0		
	市債		217,900	—	—	—	275,564		
	その他		15,498	—	—	—	22,214		
歳入計(物件費に充当される特定財源)			245,163	—	—	—	309,543		
一般財源(物件費充当分のみ)			8,993	—	—	—	0		

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 枚方市駅周辺の再整備を実施する	m	75 m	— m	— m	— m

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

		R6	R7	R8	R9	単位
説明	「枚方市駅周辺再整備ビジョン」に基づき計画通りに再整備を実施する					
指標	各年度における枚方市駅周辺再整備事業の割合					
	目標	100	0	0	0	%
	実績	100	—	—	—	%
	算出方法	実績延長／各年度における計画整備延長×100				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

		R6	R7	R8	R9	単位
説明	—					
指標	—					
	目標	—	—	—	—	%
	実績	—	—	—	—	%
	算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

用地取得に向けた協議を行い、用地を取得する

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	枚方藤阪線(岡東町地区)道路整備工事を実施した。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	引き続き、外周道路(2工区)道路整備工事に伴う道路用地取得に向け地権者と協議し交渉を進めるとともに、道路用地取得後に道路整備工事を進めていく。	R7年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	—	—	—

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　75

事務事業名称		北山通線整備事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　土木部		課:　道路河川整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　2020(R2)年度		～	事業終了予定：　2023(R5)年度			
	根拠法令等	都市計画法						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質:	—	
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	通過交通を円滑にアクセスさせることで渋滞を緩和させ、効率的な物流ネットワークを形成できている。						
	対象者(受益者)	北山通線周辺道路を利用する利用者						
	現状・課題	新名神高速道路の開通により、通過交通の増加が予想されている。						
	事業の概要	本路線は、枚方市の北道部地域を南北に連絡し、都市計画道路内里高野道線及び令和5年開通予定の新名神高速道路への重要な幹線道路である。この中で大阪府が主体となって進めている内里高野道線整備と連携して整備を行うことで、自動車交通を円滑にアクセスでき、また、他府県との地域レベルの交流を強化することで物流ネットワークを形成することができる。 【R2】 詳細設計（L=0.12㎞ ， W=12～15m） 【R3～R5】 整備工事3ケ年（L=0.12㎞ ， W=12～15m)※R6年度へ繰越						
	年間の主な事務	道路整備工事(繰越)および道路切替え後の残地部の整備						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.94人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	7,227	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		7,227	—	—	—		
	物件費計		83,626	—	—	—	20,000	418.1%
歳出計			90,853	—	—	—		
歳入	国庫支出金		12,143	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		64,200	—	—	—	18,000	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			76,343	—	—	—	18,000	
一般財源(物件費充当分のみ)			7,283	—	—	—	2,000	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 北山通線の整備を実施する。	m	160 m	ー m	ー m	ー m

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 計画通りに北山通線の整備を進めることが出来る。

指標: 北山通線整備事業全体の進捗率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	ー	ー	ー	%
実績	100				%

算出方法: 整備延長／総延長

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: —

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—

算出方法: —

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

令和6年4月完了。
切替に伴う旧道路部残地部の整備を進め、所管部署にて利活用を図る。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	R6年4月に整備完了し、走行空間の切替えを行った。 旧道路部残地の整備を行った。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	R6年度整備完了。	R7年度方向性	終了

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	終了	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　84

事務事業名称		交通バリアフリー道路整備事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　土木部		課:　道路河川整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					―			
	事業期間	事業開始：　2018(H30)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　　補助金性質:　―						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	鉄道駅及びその周辺における重点整備地区内の特定経路を利用する高齢者・障害者等の誰もが安心して安全快適に利用できている						
	対象者(受益者)	鉄道駅及びその周辺における重点整備地区内の特定経路を利用する高齢者・障害者等/鉄道駅及びその周辺における重点整備地区内の特定経路を利用する市民・事業者等						
	現状・課題	高齢者・障害者等が通行するにあたり、バリアフリー化が実現できていない歩道がある						
	事業の概要	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律に基づく「枚方市バリアフリー基本構想」、「星ケ丘・村野駅周辺地区バリアフリー基本構想」により策定した道路特定事業計画により、重点整備地区5地区の生活関連経路のうち市道に関するバリアフリー化(歩道段差解消、勾配改良、誘導ブロック設置等)の整備を図る。 ◇計画のバリアフリー道路整備延長距離の合計:L=2,570m (5重点整備地区) ・御殿山駅周辺地区:L=1,010m、宮之阪駅周辺地区:L=540m、牧野駅周辺地区:L=570m、 津田駅周辺地区:L=150m、星ケ丘駅・村野駅周辺地区:L=300m ◇実績延長距離の合計:L=520m ・H30年度:200m、R1年度:130m、R2年度:190m ◇各年度における計画のバリアフリー道路整備延長距離 ・R3、R4年度(債務設定):350m(R3:120m、R4:230m) ・R5年度:290m						
	年間の主な事務	・整備に伴う設計委託 ・整備工事						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.59人	―	―	―
再任用	0.00人	―	―	―
任期付職員	0.00人	―	―	―
会計年度任用職員	0.00人	―	―	―
特別職非常勤	0.00人	―	―	―
附属機関委員	0.00人	―	―	―

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	4,536	―	―	―		
		会計年度任用職員	0	―	―	―		
		特別職非常勤	0	―	―	―		
		附属機関委員	0	―	―	―		
	人件費計		4,536	―	―	―		
	物件費計		16,087	―	―	―	33,750	47.7%
歳出計			20,623	―	―	―		
歳入	国庫支出金		7,972	―	―	―	15,632	
	府支出金		0	―	―	―	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	―	―	―	0	
	市債		7,100	―	―	―	21,600	
	その他		0	―	―	―	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			15,072	―	―	―	37,232	
一般財源(物件費充当分のみ)			1,015	―	―	―	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① バリアフリー道路整備を実施	m	378 m	ー m	ー m	ー m

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	計画通りにバリアフリー道路整備を進めることができる					
指標	各年度における計画のバリアフリー道路整備延長に対する実績延長の割合					
	R6	R7	R8	R9	単位	
目標	100	100	100	100	%	
実績	100	ー	ー	ー	%	
算出方法	実績延長/各年度における計画のバリアフリー道路整備延長×100					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	ー				
指標	ー				
	R6	R7	R8	R9	単位
目標	ー	ー	ー	ー	ー
実績	ー	ー	ー	ー	ー
算出方法	ー				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

整備に向けた協議を関係各課と行い、整備を行う

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	牧野駅周辺地区(牧野北町第2号線)の整備工事を実施した。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	引き続き、財政状況等を勘案し計画的にバリアフリー化整備事業を進めていく。	R7年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号 85

事務事業名称		市道尊延寺穂谷線拡幅事業						
担当部署(R7年度機構)		部: 土木部		課: 道路河川整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始： 2001(H13)年度		～	事業終了予定： 未定(継続実施含む)			
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし			補助金性質: —			

詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	市道尊延寺穂谷線を徒歩で小学校に通う児童及び市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている
	対象者(受益者)	市道尊延寺穂谷線を徒歩で小学校に通う児童/市道尊延寺穂谷線を徒歩で利用する市民・事業者等
	現状・課題	市道尊延寺穂谷線の幅員が狭い場所があり、通学路の安全確保ができていない
	事業の概要	子どもの安全確保に資するため通学路に加え未就学児の移動経路を含めた安全確保を図ることを目的に策定された枚方市子どもの交通安全プログラムに基づき、市道尊延寺穂谷線の拡幅整備事業を行い、通学路の安全確保を図る。 ◇ 計画の道路拡幅整備延長距離の合計:L=290m ◇ 実績延長距離の合計:L=133m ◇ 各年度における計画の道路拡幅整備延長距離:各年度未定
	年間の主な事務	用地取得に向け協議継続

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.00人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	0	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		0	—	—	—		
	物件費計		0	—	—	—	0	0.0%
歳出計			0	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			0	—	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 道路拡幅整備を実施	m	0 m	ー m	ー m	ー m

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 計画通りに道路拡幅整備を進めることができる

指標: 各年度における計画の道路拡幅整備延長に対する実績延長の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	0	0	0	0	%
実績	0	—	—	—	%
算出方法	実績延長/各年度における計画の道路拡幅整備延長×100				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: —

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

用地取得に向けた協議を行い、用地を取得する

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	今後の事業展開について検討が必要である。 地権者との協議が整っていないため、予算計上ができない。
R7 年度	
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度 取組方針	地権者の動向や財政状況等を勘案し、事業の着手(再開)時期を検討していく。	R7年度 方向性	現状維持

参考	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
方向性の経過	現状維持	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　86

事務事業名称		踏切道(交野・第一藤阪)拡幅事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　土木部		課:　道路河川整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　2014(H26)年度		～	事業終了予定：　未定(継続実施含む)			
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし			補助金性質:　—			
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	市道王仁公園前線を徒歩で小学校に通う児童及び市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている						
	対象者(受益者)	市道王仁公園前線を徒歩で小学校に通う児童/市道王仁公園前線を徒歩で利用する市民・事業者等						
	現状・課題	市道王仁公園前線の歩道に狭い場所があり、通学路の安全確保ができていない						
	事業の概要	子どもの安全確保に資するため通学路に加え未就学児の移動経路を含めた安全確保を図ることを目的に策定された枚方市子どもの交通安全プログラムに基づき、市道王仁公園前線(第一藤阪踏切)の歩道拡幅整備事業を行い、通学路の安全確保を図る。 ◇ 計画の歩道拡幅整備延長距離の合計:L=56m ◇ 実績延長距離の合計:L=35m ◇ 各年度における計画の道路拡幅整備延長距離:各年度未定						
	年間の主な事務	用地取得に向け協議継続						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.00人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	0	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		0	—	—	—		
	物件費計		0	—	—	—	0	0.0%
歳出計			0	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			0	—	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 歩道拡幅整備を実施	m	0 m	ー m	ー m	ー m
② 踏切道(交野・第一藤阪)拡幅整備に係る用地取得を実施	㎡	0 ㎡	ー ㎡	ー ㎡	ー ㎡

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

	アウトプット(活動が産み出した結果)						直接アウトカム(結果による変化・便益)					
ロジックモデル	アウトプット①	説明	計画通りに歩道拡幅整備を進めることができる				アウトカム①	説明	―			
		指標	各年度における計画の歩道拡幅延長に対する実績延長の割合					指標	―			
			R6	R7	R8	R9	単位		R6	R7	R8	R9	単位
		目標	62.5	62.5	62.5	62.5	%	目標	―	―	―	―	―
		実績	0	―	―	―	%	実績	―	―	―	―	―
		算出方法	実績延長/各年度における計画の歩道拡幅延長×100					算出方法	―				
ロジックモデル	アウトプット②	説明	踏切道(交野・第一藤阪)拡幅整備対象区画における、すべての用地を取得できる				アウトカム②	説明	―			
		指標	歩道拡幅整備用地取得面積の合計に対する実績用地取得面積の合計の割合					指標	―			
			R6	R7	R8	R9	単位		R6	R7	R8	R9	単位
		目標	62.5	62.5	62.5	62.5	%	目標	―	―	―	―	―
		実績	0	―	―	―	%	実績	―	―	―	―	―
		算出方法	実績用地取得面積の合計/歩道拡幅整備用地取得面積の合計×100					算出方法	―				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

用地取得に向けた協議を行い、用地を取得する

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	今後の事業展開について検討が必要である。 地権者との協議が整っていないため、予算計上ができない。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	地権者の動向や財政状況等を勘案し、事業の着手(再開)時期を検討していく。	R7年度方向性	現状維持

参考	方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
		現状維持	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　96

事務事業名称		自転車通行空間整備事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　土木部		課:　道路河川整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　2017(H29)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	自転車ネットワーク路線に位置付けられた市道を徒歩で利用する市民及び自転車で利用する市民等が安心して安全快適に利用できている						
	対象者(受益者)	自転車ネットワーク路線に位置付けられた市道を徒歩で利用する市民/自転車ネットワーク路線に位置付けられた市道を自転車で利用する市民等						
	現状・課題	歩行者と自転車の錯綜により安全に通行できない環境である						
	事業の概要	枚方市自転車活用推進計画に位置付けられた枚方市主要鉄道駅周辺自転車ネットワーク計画に基づき、歩道を走行する自転車を車道に誘導し、安全で快適な自転車の通行空間及び歩行空間の整備を図る。 ◇　計画の自転車通行空間整備延長距離の合計:L=32,600m ・北部地区:L=9,400m、中部地区:L=5,800m、東部地区:L=6,000m、南部地区:L=11,400m ◇　実績延長距離の合計:L=3,450m ・H30年度:2,500m、R1年度:750m、R2年度:200m ◇　各年度における計画の自転車通行空間整備延長距離 ・R3年度:1,480m ・R4年度:1,410m ・R5年度:1,700m						
	年間の主な事務	・整備に伴う設計委託 ・整備工事						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.51人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	3,921	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		3,921	—	—	—		
	物件費計		15,689	—	—	—	22,120	70.9%
歳出計			19,610	—	—	—		
歳入	国庫支出金		8,060	—	—	—	8,060	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		5,900	—	—	—	12,600	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			13,960	—	—	—	20,660	
一般財源(物件費充当分のみ)			1,729	—	—	—	1,460	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 自転車通行空間整備を実施	m	317 m	ー m	ー m	ー m

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 計画通りに自転車通行空間整備を進めることができる

指標: 各年度における計画の自転車通行空間整備延長に対する実績延長の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	100	—	—	—	%
算出方法	実績延長/各年度における計画の自転車通行空間整備延長×100				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: —

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

整備に向けた協議を関係各課と行い、整備を行う

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	北片鉾小倉東線他1路線の整備工事を実施した。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	引き続き、財政状況等を勘案し、他事業との調整や連携を図りながら計画的に自転車通行空間整備事業を進めていく。	R7年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　97

事務事業名称	中宮区第33号線他歩道フラット化整備事業							
担当部署(R7年度機構)	部: 土木部		課: 道路河川整備課		区分	持続的事業		
基本項目	総合計画	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち		細区分	投資的区分		
		施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち		性質	交通・都市基盤		
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始： 2018(H30)年度		～	事業終了予定： 未定(継続実施含む)			
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし			補助金性質: —			
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	市道中宮区第33・34号線の歩道を徒歩で小学校に通う児童及び学生並びに市民・事業者等が安心して安全快適に利用できている						
	対象者(受益者)	市道中宮区第33・34号線の歩道を徒歩で小学校に通う児童及び学生/市道中宮区第33・34号線の歩道を徒歩で利用する市民・事業者等						
	現状・課題	中宮区第33・34号線の歩道の段差により通学児童をはじめとする歩行者の安全確保が必要である						
	事業の概要	子どもの安全確保に資するため通学路に加え未就学児の移動経路を含めた安全確保を図ることを目的に策定された枚方市子どもの交通安全プログラムに基づき、中宮区第33・34号線の歩行空間を確保する等の道路空間再配分事業を図る。 ◇ 計画の道路空間再配分整備延長距離の合計:L=630m ◇ 実績延長距離の合計:L=0m ◇ 各年度における計画の道路空間再配分整備延長距離 第1期工事:L=180m(未定) 第2期工事:L=260m(未定) 第3期工事:L=190m(未定)						
	年間の主な事務	整備等に向け協議・検討継続						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.00人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	0	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		0	—	—	—		
	物件費計		0	—	—	—	0	0.0%
歳出計			0	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			0	—	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 道路空間再配分整備を実施	m	0 m	ー m	ー m	ー m

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明	計画通りに道路空間再配分整備を進めることができる					
指標	各年度における計画の道路空間再配分整備延長に対する実績延長の割合					
	R6	R7	R8	R9	単位	
目標	0	0	0	0	%	
実績	0	―	―	―	%	
算出方法	実績延長/各年度における計画の道路空間再配分整備延長×100					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	―				
指標	―				
	R6	R7	R8	R9	単位
目標	―	―	―	―	―
実績	―	―	―	―	―
算出方法	―				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

整備に向けた協議を関係各課と行い、整備方法の検討を行う

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	今後の事業展開について検討が必要である。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	他事業との調整や連携を図るとともに財政状況等を勘案し、事業の着手時期を検討していく。	R7年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　581

事務事業名称	橋梁長寿命化修繕事業							
担当部署(R7年度機構)	部:　土木部		課:　道路河川整備課		区分	持続的事業		
基本項目 総合計画	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち			細区分	投資的区分		
	施策目標	1.災害に対する備えができているまち			性質	交通・都市基盤		
市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
				—				
事業期間	事業開始：　2012(H24)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)							
根拠法令等	社会資本整備重点計画法							
関係附属機関等	該当なし							
関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—							

詳細項目 事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	ライフサイクルを見据えた管理が確立されることにより、市民負担が軽減、平準化されると共に、橋梁を安全・安心に通行できることで、人の交流や、物流が円滑に進んでいる
対象者(受益者)	橋梁を利用する市民すべて。/橋梁を利用する事業者すべて
現状・課題	事後保全型の補修では、予想外の財政負担が発生することになり、市民負担の増加、補修作業の遅滞につながる。/橋梁を通行する利用者が円滑かつ安全に通行できないと人の交流及び物流が滞る。
事業の概要	平成24年度に策定した枚方市橋梁長寿命化修繕計画に基づき、予防保全並びに、維持管理費の縮減と平準化を図るため、構造物の劣化補修や耐震基準に基づく耐震補強工事を行う。また、令和2年度の計画見直しにより補修が必要と判断された37橋についても、計画的に工事を行う。 【H24　計　　画】H25～R2　施工数　N=35橋 【R2　更新計画】R 3～R12　施工数　N=37橋
年間の主な事務	・整備に伴う設計委託 ・整備工事

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.75人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	5,766	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		5,766	—	—	—		
	物件費計		53,530	—	—	—	0	0.0%
歳出計			59,296	—	—	—		
歳入	国庫支出金		13,023	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		40,400	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			53,423	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			107	—	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 橋梁長寿命化に向け、必要な修繕を行う	橋	3 橋	ー 橋	ー 橋	ー 橋

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	橋梁が適切に維持管理できている
指標	橋梁長寿命化計画における各年度の進捗率

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	0	100	100	%
実績	100	—	—	—	%
算出方法	修繕済橋梁数/計画修繕予定橋梁数×100				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

整備に向けた協議を関係各課と行い、整備を行う

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	防災上、道路ネットワーク上において重要な路線と位置付ける141橋梁について、枚方市橋梁長寿命化計画に基づき、予防保全並びに維持管理費の縮減と平準化を図るため、構造物の劣化補修並びに耐震基準に基づく修繕補強工事を行っている。令和6年度は、3橋の修繕工事を実施した。
R7 年度	
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度 取組方針	本事業は、国の交付金を積極的に活用し、今後も枚方市橋梁長寿命化計画に基づき修繕補強工事を実施していく。	R7年度 方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
	現状維持	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　585

事務事業名称	主要道路リフレッシュ整備事業							
担当部署(R7年度機構)	部:　土木部		課:　道路河川整備課		区分	持続的事業		
基本項目 総合計画	基本目標	1.安全で、利便性の高いまち			細区分	投資的区分		
	施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち			性質	交通・都市基盤		
市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
				—				
事業期間	事業開始：　2005(H17)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)							
根拠法令等	社会資本整備重点計画法							
関係附属機関等	該当なし							
関係補助金等	該当なし　　補助金性質:　—							

詳細項目 事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	道路を安全・安心に通行できることで、人の交流や、物流が円滑に進み、事故も減っている状態
対象者(受益者)	市内の主要幹線道路を利用する市民すべて。/市内の主要幹線道路を利用する事業者すべて
現状・課題	市内主要幹線道路は交通量も多く、道路を通行する利用者が円滑かつ安全に通行できないと人の交流及び物流が滞り、事故も増える
事業の概要	開通時からの利用状況の変化に舗装構造が合わなくなった主要幹線道路の12路線に対して、地盤等の調査結果を基に、現在の利用状況にあった舗装構成に改築及び更新(リフレッシュ整備)を行う。
年間の主な事務	・整備に伴う設計委託 ・整備工事

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	1.30人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	9,994	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		9,994	—	—	—		
	物件費計		302,020	—	—	—	866,898	34.8%
歳出計			312,014	—	—	—		
歳入	国庫支出金		86,113	—	—	—	345,353	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		203,000	—	—	—	499,800	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			289,113	—	—	—	845,153	
一般財源(物件費充当分のみ)			12,907	—	—	—	21,745	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 市内の主要幹線道路12路線のうち、路面損傷や支持力等の調査の上、リフレッシュ整備を行う	m	1,425 m	ー m	ー m	ー m

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	計画的に整備延長を修繕できている					
指標	各年度における計画の主要道路リフレッシュ整備延長に対する実績延長の割合					
	R6	R7	R8	R9	単位	
目標	100	100	100	100	%	
実績	100	―	―	―	%	
算出方法	実績延長/各年度における計画の主要道路リフレッシュ整備延長×100					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	―				
指標	―				
	R6	R7	R8	R9	単位
目標	―	―	―	―	―
実績	―	―	―	―	―
算出方法	―				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

整備に向けた協議を関係各課と行い、整備を行う

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	安全で快適な道路環境の確保を図るため、主要幹線道路や都市計画道路など12路線の路面の補修等を行うリフレッシュ整備を計画的に推進している。令和6年度においては、楠葉中宮線他3路線のリフレッシュ整備工事を実施した。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	計画予定延長を実施できるように、今後も交付金(加速化対策)の活用を積極的に行い整備を行う。	R7年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号 885

事務事業名称	道路河川整備課運営事務							
担当部署(R7年度機構)	部: 土木部		課: 道路河川整備課		区分	行政運営事業		
基本項目 総合計画 基本目標	9.施策体系外				細区分	行政運営区分		
施策目標	99.施策体系外				性質	内部事務・行政運営		
市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
				—				
事業期間	事業開始： 不明		～	事業終了予定： 未定(継続実施含む)				
根拠法令等	決裁							
関係附属機関等	該当なし							
関係補助金等	該当なし			補助金性質: —				

詳細項目 事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	他部署との連絡調整、課内での情報の共有化を行い適正かつ迅速に業務を行う
対象者(受益者)	課職員
現状・課題	課の運営を円滑に図る必要がある
事業の概要	行政評価及び事業計画等に関する事務 ・庁内外への照会・回答処理事務 ・財務会計事務　等
年間の主な事務	・庁内外への照会・回答処理事務 ・財務会計事務　等

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	1.45人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳		正職員、再任用、任期付職員	11,148	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		11,148	—	—	—		
	物件費計		21,186	—	—	—	21,807	97.2%
歳出計			32,334	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		32	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			32	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			21,154	—	—	—	21,807	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
①			―	―	―

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①			R6	R7	R8	R9	単位
説明							
指標		目標					
		実績					
		算出方法					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①			R6	R7	R8	R9	単位
説明							
指標		目標					
		実績					
		算出方法					

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	他部署との連絡調整及び課内での情報共有化を行い、適正かつ迅速に業務を行った。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	適正かつ迅速に業務を行っていく。	R7年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	―	―	―

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　967

事務事業名称		歩道拡幅整備事業(中振新香里線)						
担当部署(R7年度機構)		部:　土木部		課:　道路河川整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○			
	事業期間	事業開始：　R5年度(2023年度)　～　事業終了予定：　未定(継続実施)						
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　　補助金性質:　—						

詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	周辺にある小学校・高校の児童・生徒や市民などが安全に利用ができる歩道
	対象者(受益者)	市道中振新香里線を徒歩で小学校に通う児童、高校に通学する生徒/市道中振新香里線を徒歩で利用する市民・事業者など
	現状・課題	市道中振新香里線の歩道が狭いため、児童・生徒や市民などが車道にはみ出して通行し危ない状況
	事業の概要	児童・生徒や市民などが安全に利用ができる歩行者空間の確保をするため、通学路として主に利用されている南側の歩行空間約590mの内、約124mにおいての歩道拡幅整備を行う ・R5年度:基本設計委託予定(対象路線約590m) ・R6年度:詳細設計委託等、拡幅工事予定(部分的な歩道拡幅約124m) 児童・生徒や市民などが安全に利用ができる歩行者空間の確保をするため、通学路として主に利用されている南側の歩行空間約590mの内、約124mにおいての歩道拡幅整備を行う ・R5年度:基本設計委託予定(対象路線約590m) ・R6年度:詳細設計委託等、拡幅工事予定(部分的な歩道拡幅約124m)
	年間の主な事務	・整備に伴う設計委託 ・整備工事 ・用地取得に向け協議継続

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.43人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	3,306	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		3,306	—	—	—		
	物件費計		0	—	—	—	0	0.0%
歳出計			3,306	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			0	—	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 歩道拡幅整備を実施	%	0 %	ー %	ー %	ー %

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	計画通りに歩道拡幅整備を進めることができる					
指標	各年度における計画の歩道拡幅整備延長に対する実績延長の割合					
	R6	R7	R8	R9	単位	
目標	0	100	100	100	%	
実績	0	ー	ー	ー	%	
算出方法	実績延長/各年度における計画の歩道拡幅整備延長×100					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	ー				
指標	ー				
	R6	R7	R8	R9	単位
目標	ー	ー	ー	ー	ー
実績	ー	ー	ー	ー	ー
算出方法	ー				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

用地取得を伴わない範囲について、R10年度までに整備完了する

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	R6年度は詳細設計の実施を行い、R7年度整備に向けたとりまとめを行った。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	令和7年度以降も引き続き歩道拡幅整備事業を進めていく。	R7年度方向性	現状維持

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	現状維持	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　987

事務事業名称		歩道拡幅整備事業(高田11号線)						
担当部署(R7年度機構)		部:　土木部		課:　道路河川整備課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	1.安全で、利便性の高いまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	4.安全で快適な交通環境が整うまち				性質	交通・都市基盤	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					○			
	事業期間	事業開始：　2024(R6)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施)						
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	周辺住民の方などが安全で安心に利用ができる歩道						
	対象者(受益者)	市道高田11号線を徒歩で利用する周辺住民・事業者など						
	現状・課題	市道高田11号線に歩道がないため、周辺住民の方などが車道を通行し危ない状況						
	事業の概要	今後も利用者などが安全に利用ができる快適な通行空間の確保をするために、今回、高田第11号線西側の歩行空間約140mの歩道拡幅整備を行う ・R6年度:歩道拡幅用地測量、詳細設計予定 ・R7年度:歩道拡幅用地取得業務予定 ・R8年度:歩道拡幅整備工事予定 ・R9年度:歩道拡幅整備工事予定						
	年間の主な事務	・整備に伴う設計委託 ・整備に伴う用地取得業務 ・整備工事						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.33人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	2,537	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		2,537	—	—	—		
	物件費計		3,590	—	—	—	23,500	15.3%
歳出計			6,127	—	—	—		
歳入	国庫支出金		1,795	—	—	—	7,155	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		1,600	—	—	—	14,600	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			3,395	—	—	—	21,755	
一般財源(物件費充当分のみ)			195	—	—	—	1,745	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 歩道拡幅整備を実施	%	0 %	ー %	ー %	ー %
② 歩道拡幅整備に係る用地取得を実施	%	0 %	ー %	ー %	ー %

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明	計画通りに歩道拡幅整備を進めることができる
指標	各年度における計画の歩道拡幅整備延長に対する実績延長の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	0	0	100	100	%
実績	0	—	—	—	%
算出方法	実績延長/各年度における計画の歩道拡幅整備延長×100				

ロジックモデル

アウトプット②

説明	歩道拡幅整備に係るすべての用地を取得できる
指標	歩道拡幅整備用地取得面積の合計に対する実績用地取得面積の合計の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	0	100	0	0	%
実績	0	—	—	—	%
算出方法	実績用地取得面積の合計/歩道拡幅整備用地取得面積の合計×100				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—
算出方法	—				

アウトカム②

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

用地取得に向けた協議を行い、用地を取得する

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6 年度	R6年度は歩道拡幅に向けた詳細設計を実施した。
R7 年度	
R8 年度	
R9 年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度 取組方針	令和7年度以降も引き続き歩道拡幅整備事業を進めていく。	R7年度 方向性	**現状維持**

参考	方向性の経過	R6年度の方向性 (R5実績測定)	R7年度の方向性 (R6実績測定)	R8年度の方向性 (R7実績測定)	R9年度の方向性 (R8実績測定)	R10年度の方向性 (R9実績測定)
		—	**現状維持**	ー	ー	ー